

とうぼう

navi

社会科学情報

Contents

【公共】特集 教科書『公共 新訂版』の経済教育における概念（見方・考え方）を働かせる工夫	1
教科書・資料集を活用した主権者教育としての哲学対話	4
共通テスト新科目を受けての活用案 大学入学共通テストを突破する読解力・思考力を養成し、授業・講習や定期考査の作問にも参考になる問題集をめざして	5
共通テスト実施を受けた『Winning COM.-PASS 世界史の整理と演習』の活用案	7
『Winning COM.-PASS 日本史の整理と演習』の特徴と活用の提案	9
共通テスト実施を受けて『Winning COM.-PASS 公共・政経の整理と演習』の授業活用例・活用案紹介	11

「公共」特集

教科書『公共 新訂版』の経済教育における概念（見方・考え方）を働かせる工夫

上越教育大学大学院
学校教育研究科 教授

よし だ まさ ゆき
吉田 昌幸



（公共190-901『公共 新訂版』監修・執筆者、『見る、解く、納得！公民資料』執筆者）

1 経済的見方・考え方の二つの側面：論拠と認識枠組み

本稿の主題は、経済教育における見方・考え方（以下「見方・考え方」）を働かせる工夫についてである。『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』において、「公共」を通じて育成されるべき資質・能力として、社会的課題の認識能力、原理に基づいた判断・議論する力、現代社会における人間や公民としての自覚の三つがあげられており、それぞれ、「知識や技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」と対応している。本稿でその働かせ方を工夫していく「見方・考え方」は、主に、

原理に基づいた判断・議論する力（思考力・判断力・表現力等）の育成において重要なものとして位置づけられているが、以下で示すように、社会課題の認識能力（知識や技能）の育成においても重要性を持っている。

「見方・考え方」が原理に基づいた判断・議論する力の育成において重要なのは、図1に示すような学習過程において、特に調査や気づき、議論などの過程で「見方・考え方」が学習者に論拠を提供するからである。例えば、関税の国内製造業に対する影響に関する調査をする際に、適切な調査を行う際の論拠として効率や公正といった「見方・考え方」が活用される。その一方で、問いの設定のような、主に知識や技能に関わる学習過程の初期においても、「見方・考え方」は重



図1 学習過程における「経済的見方・考え方」

要性を持つ。それは、社会的課題を認識する際の認識枠組みとして「見方・考え方」が不可欠だからである。

例えば、政府の効率化という目的のもとで、特定の政府機関の職員の解雇を行ったり、機関そのものを廃止したりするような動きに対しては、財政、雇用、契約、政治、正義など多様な視点から見ていくことができる。そのような中で経済的な問いを立てるためには、経済主体としての家計・企業・政府という位置づけや、財政の仕組み、公共財の性質など様々な知識を組み合わせた「見方・考え方」という「社会を見る枠組み」から問いを設定する必要がある。実は、教科書『公共 新訂版』の『「経済」の見取り図』は、この「社会を見る枠組み」として活用してもらいたいという意図のもとで書かれている。以下では、この「見方・考え方」で社会を見るためのポイントについて述べていく。

2 社会を見る枠組みとしての「見方・考え方」

(1)：経済活動とは何か？

「経済」の見取り図（以下「見取り図」）の中で、「私たちの日常生活は、有限な資源をもちいた生産、消費、労働、取引といった経済活動なしにはなりたない」（98頁）と書いている。社会を見る枠組みとしての「見方・考え方」の第一は、様々な人間活動をこのような視点から見ていくということにある。「見取り図」における高校生二人の会話の中で「コンビニで買うものを決めたりすることだけでなく、ボランティアをやってみるかどうかを決めること」（98頁）も経済の問題と言っているのは、限られた予算で自分の好きなものを買うという購買活動だけでなく、限りある時間をどのような活動（勉強、部活、ボランティア、趣味など）に割り当てるかという問題を決定すること、もこの経済活動に当てはまるからである。そして、そ

の活動が良かったかどうかを判断する基準のひとつがコスパ（コストパフォーマンス）という効率性に関する基準がある。

ところで、高校生の会話の最初に、「できるだけお金をかけないでより多くのことを得る」（98頁）ということが経済活動としているが、この視点は半分正しく半分間違っている。例として、近所に住み、同じ高校に通う高校生AとBの行動を取り上げてみよう。Aは電車を利用して30分で高校に着く一方で、Bは自転車で1時間かけて高校に着く。両者が時間に関して同じ選好を持つとすれば、Bの方が30分も余計に時間がかかる移動手段を選んでいるという点から、コスパが悪いといえることができる。このような点では先ほどの高校生の発言は正しい。しかし、Bにとって自転車で通学する1時間が1日の中で最も重要な時間だとすれば話が変わってくる。Bにとっては、好きな自転車に乗って高校に行く時間こそ幸福であり、逆に電車に乗って早く高校に着いたとしてもBにとっては全く良いことにはならない。限りある資源を用いて自らの目的を無駄なく実現するためにはどうするかという「効率的な経済活動」という視点から見れば、AとBのそれぞれの選好による目的を確認することは重要であり、効率性という基準は、目的自体の優越ではなく、有限な資源を活用して目的を実現する手段の優越を問う基準であるという点は確認しておく必要がある。

3 社会を見る枠組みとしての「見方・考え方」

(2)：社会のしくみとしての市場

社会を見る枠組みとしての「見方・考え方」の第二は、有限な資源を社会全体で無駄なく用いることができるしくみとしての市場である。希少性のある財やサービス（これを経済財という）を様々な選好を持つ主体がそれぞれの目的を達成するために活用していく

社会において、「必要なモノが必要なヒトに必要な分だけ」行き渡らせるためには市場を活用した方が望ましいというのが経済学の知見のひとつである。

この知見には、市場による効率的な資源配分には限界があり、特に公共財と呼ばれる財やサービスはフリーライダーの存在を排除できずに適切な量の供給が市場では難しくなるということも含まれる。これらの財が政府によって供給される理由もここにある。また、コモンプール財である公海における海洋資源などは、過剰に活用され、枯渇してしまうといった資源の持続可能性が危くなる状況も発生しやすい。一般に市場の失敗と呼ばれるこのような現象に対しては、一定のルールを決めた上で、補助金や課税といったインセンティブ手法をもって、ルールを遵守させることが求められている。

このような「見方・考え方」に基づいて、公共サービスの民営化という問題を考えてみるとどうなるだろうか。「見方・考え方」に基づけば、その公的サービスがなぜ公的機関によって供給されているのかを第一に考えることになるだろう。公共財に相当するものを提供しているのかどうか、民間の複数の企業で供給するようになれば、どのようなことが生じるのか、公的サービスを支える財政はどのような状況になっているのかなど、様々な視点からこの問題を考えていけることになるだろう。

4

社会を見る枠組みとしての「見方・考え方」 (3)：国民経済という視点

社会を見る枠組みとしての「見方・考え方」の最後は、国民経済という経済単位である。私たちが暮らしている社会における持続可能性を考える上で、一国経済が一定期間にどれほどの生産活動をしているのかという視点は不可欠である。そのような視点はGDPという指標をもちいて様々な分析ができる。一人あたりGDPはもちろんのこと、一人あたりGDPに占める政府の負債の割合や教育投資の割合など、様々なデータを国際比較可能な形で検討することができる。また、一国経済の生産活動は、企業や家計、政府という三つの主体からそれぞれ見ていくことができる。特に政府は財政政策を通じて税や公的支出を調整し、生産活動



図2 経済の見取り図(『公共 新訂版』p.98・99)

を促していく。また、中央銀行は金融政策を通じて、国内の貨幣供給量を調整しながら、物価の安定を図る。このような「見方・考え方」に基づいて、国家財政の持続可能性という問題について考えてみるとどうなるだろうか。「見方・考え方」に基づけば、日本の財政状況を他国との比較を通じて把握することができる。さらに、税収に占める直接税と間接税の比率や、国債の発行額(年間・累積)、歳出に占める社会保障割合の推移とその原因など様々な観点から国家財政の持続可能性について考えていくことができる。

5 おわりに

本稿では、「見取り図」の内容を見ていながら、「見方・考え方」を主に社会を見る認識枠組みとしてもちいていくことについて述べてきた。実社会において経済主体として振る舞う経験が少ない高校生に対して、「経済という視点から社会を見るとどう見えるのか」という観点から「見方・考え方」を活用していくことは、公共における政治、法、倫理、宗教、哲学など様々な「見方・考え方」がある中で、経済的な「見方・考え方」をとおして見えてくることや見えなくなることについて意識させることができる。このような視点があつて初めて論拠として「見方・考え方」を活用していくこともできるであろう。

【参考文献】

文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』

教科書・資料集を活用した 主権者教育としての哲学対話



信州大学教育学部
助教
まつしま 恒 照
松島 恒 照



1 はじめに

「暗記科目」と揶揄されることもある地歴・公民科において、私たち教師には何ができるであろうか？ オンライン教材やAIの発達が目まぐるしい現代において、学校や教師の存在意義とは何か？ なぜ「私たち」はわざわざ対面で集い、一緒に学ぶのか？ そもそも「私たち」とは誰か？ 一緒に学ぶとはどういうことか？

もし、以上のような「問い」を、生徒から投げかけられたとしたら、何と答えるだろうか？ そもそも教師はなぜ「答え」ようとするのだろうか？ この、「教師は生徒の問いに答えるべき」というような姿勢・関係性が少しでも変化する学習活動として着目されているのが、「哲学対話」である。

周知の通り「哲学対話」は、公民科の教科書や資料集、国語科の教科書など、学校現場の教材においても掲載され、推奨されるようになった。例えば、高等学校学習指導要領においても、「哲学に関わる対話的な手法などを取り入れた活動」（『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』p.86）が明記されており、まさに「哲学対話」が「主体的・対話的で深い学び」を促進することが期待されていると言える。

本実践においては、教科書や資料集の学習内容に沿って、一人一人が自身の意見を表明し、他者に聴いてもらうという民主的な活動として「哲学対話」を位置づけ、「主権者教育」としての可能性を探究した。

2 実践事例の紹介

紙幅の関係で、詳細な情報を記載することはできないが、2025年3月にまとめた『主権者教育としての対話型授業 実践事例集』（簡易製本版。出版は2025年度中を予定。）の中から一つの事例を紹介したい。本実践は、長野県松本県ヶ丘高等学校の先生方と公民科「公共」において共同実施した事例であり、東京法令

出版の教科書および資料集を活用した。

手順としては、以下の通り進めた。①教科書（p.30）に掲載されている「正当な報酬」についての思考実験に取り組み、グループで意見を共有した。②思考実験を踏まえた上で、「格差とは？」という問いを設定した。③その問いについて、Thinking Timeを設け、生徒はまず各自で思いつくことや意見を対話シートにメモした。④4～5人のグループに分かれ、各自の意見を順番に発表しながら哲学対話を実施した。⑤ロールズの格差原理を含む正義論について、教科書や資料集をもとに教員の解説を聞き、さらに対話を進め、理解を深めた。⑥最後に、対話シートを参照しながら自己評価アンケートを実施し、タブレットを用いて対話の振り返りを書いた。

3 主権者教育としての哲学対話

上記の実践で生徒たちは、最初に思考実験に取り組みることによって、社会問題や正義論を自分事として考察することができた。また、「格差とは？」という、一見抽象的な問いに対しても、身近な事柄を用いて具体的に思考しながら対話することができた。

「主権者教育」という言葉を聞くと、選挙の仕組みや意義を伝えたり、模擬選挙を実施したりといった学習活動がイメージされがちだが、選挙で投票することだけが「主権者」の責任ではない。アーレント（『人間の条件』、『政治の約束』など）によれば、人間が言論を用いて対話すること自体が、「政治参加」への第一歩である。

そのような対話的で民主的な空間を、教室で実現することが教育者の責任（ピースタ『学習を超えて』）であるならば、「哲学対話」によって教員が「共同探究者」（リップマン『教育における思考』）となり、生徒と共に学校を民主化すること自体が、「主権者教育」となりうるのではないだろうか。

共通テスト新科目を受けての活用案

大学入学共通テストを突破する読解力・思考力を養成し、授業・講習や定期考査の作問にも参考になる問題集をめざして

日本史探究・歴史総合
問題集／世界史探究・
歴史総合問題集
『Winning COM.-PASS
資料読解』
日本史〈近現代編〉/
世界史〈近現代編〉



東京学館新潟高等学校
教諭

わた なべ かず き
渡 邊 一 輝

(『Winning COM.-PASS 資料読解 日本史
〈近現代編〉』『Winning COM.-PASS 歴史
総合の整理と演習』『Winning COM.-PASS
日本史の整理と演習』編集委員)



1 はじめに

令和7年1月18日(土)、新課程に対応した初めての大学入学共通テストが実施された。歴史科目においては、歴史総合の出題科目への追加や、多様な資料を駆使した、受験生の思考力を問う出題形式が話題になったことが記憶に新しい。

大学入試センターが発表した「令和7年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」において歴史科目は、次のように説明されている。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、歴史的な見方・考え方を働かせながら、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。

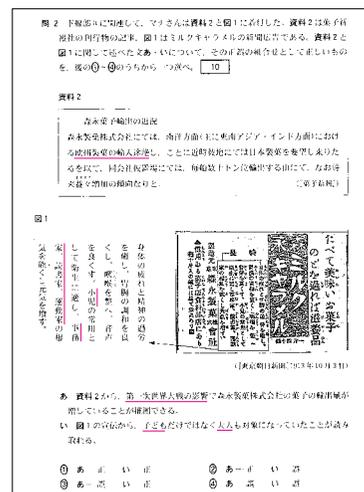
(中略) 教科書等で扱われていない資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や、仮説を立てて資料に基づき、根拠を示したり検証したりする問題、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

上記からは、基本的な歴史用語だけでなく、資料を活用した歴史的な思考力をはかる問題の出題を予告していたことがわかる。

2 令和7年度共通テスト出題例

次に令和7年度共通テスト「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」で実際に出題された問題を取り上げて、検討を加えてみる。

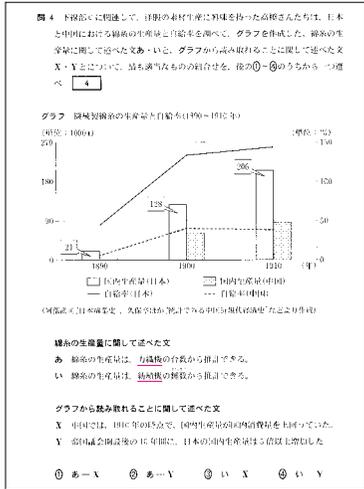
(1) 歴史総合、日本史探究



〔歴史総合〕日本史探究〕第2問・問2〕

ミルクキャラメルの雑誌記事(資料2)と新聞広告(図1)から読み取れること(あ・い)の正誤を判定する問題である。資料2のなかの「欧州製菓の輸入途絶」がああ文章では「第一次世界大戦の影響」と言い換えられていることを見破れるかがポイントとなる。図1で使われている「小児」「事務家、読書家、運動家」という文言が、いの文章では「子ども」「大人」と言い換えが行われている(正解:①)。

(2) 歴史総合、世界史探究



(1) 歴史総合、世界史探究 第1問、問4

1890～1910年の日本と中国における綿糸生産量と綿糸の自給率のグラフから読み取れること(あ・いとX・Y)の組合せを選択する問題である。「綿糸の生産量に關して述べた文」あ・いの正誤を判定するためには、「力織機」「紡績機」という用語を知らなければならず、基本的な歴史用語は習得しておかなければならない。「グラフから読み取れることに関して述べた文」X・Yは、帝国議会開設の時期を知っているという前提はあるものの、グラフ(資料)の読み取りから判断させる問題である(正解:④)。

以上のことから、「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」どちらも基礎的知識の習得を前提とした上で、多様な資料の読み取りを通じた、受験生の思考力を問う良問が出題されていると言えるだろう。

の解答を導くための思考を辿ることができるようになっていく。

日本史〈近現代編〉P.15

資料1 外務省官報(明治30年)「中ノ多量トスル事ナリ……其既ニ本邦ニ織機」スルハ吾人ノ心ヲ所ナシテ(綿糸生産)日本ノ人ニシテ不利益ナルベシ。故ニ本邦ニ付テハ公平ノ競争ヲ得テ、不利ノ結果ヲ受ケル日本ノ人ナシ。同種ノ他ノ日本ノ事ヲ論ズルニシテ織機ノ事ハ尤モ尤モ論ズルベシ。……

資料2 外務省官報(明治30年)「中ノ多量トスル事ナリ……其既ニ本邦ニ織機」スルハ吾人ノ心ヲ所ナシテ(綿糸生産)日本ノ人ニシテ不利益ナルベシ。故ニ本邦ニ付テハ公平ノ競争ヲ得テ、不利ノ結果ヲ受ケル日本ノ人ナシ。同種ノ他ノ日本ノ事ヲ論ズルニシテ織機ノ事ハ尤モ尤モ論ズルベシ。……

問題 上の資料1と2を基に、以下の問いに答えよ。

① 空欄(ア)に当てはまる人物の政治的立場を述べ、正しいものを下の①～④のうち一つ選べ。
 ① ヨーロッパ列強やアメリカ合衆国を模倣する者たち。政治的正義の主張を認めた。
 ② アメリカ合衆国や列強国に追随する者たち。イデオロギイの近代化を認めた。
 ③ 国家主義の立場を堅持し外交交渉を進めた。政治的正義の責任を認めた。
 ④ 国家主義の立場を堅持し外交交渉を進めた。政治的正義の責任を認めた。

(2) 別冊解答・解説

解答・解説は単元または大問ごとに「作問のねらい」を掲載し、「問題を解く際、何に着目すればよいか」「問題を解くことを通して学んでほしいこと」を明確化している。また、全問に詳細な解説が付いており、1人で学習を進める生徒も復習がしやすくなるよう配慮している。

4 国語とアジアの民族 90-92

問題 下の地図を参考に、以下の問いに答えよ。

① 空欄(ア)に当てはまる民族を述べ、正しいものを下の①～④のうち一つ選べ。
 ① ヨーロッパ列強やアメリカ合衆国を模倣する者たち。政治的正義の主張を認めた。
 ② アメリカ合衆国や列強国に追随する者たち。イデオロギイの近代化を認めた。
 ③ 国家主義の立場を堅持し外交交渉を進めた。政治的正義の責任を認めた。
 ④ 国家主義の立場を堅持し外交交渉を進めた。政治的正義の責任を認めた。

世界史〈近現代編〉解答P.6-7

3 本書の特徴と活用方法

(1) 本書の構成

本書は、共通テストを突破する上で避けて通れない資料読解問題をメインに扱っている。巻頭特集「資料読解の解法・スキル」では、資料読解問題を解く上での着眼点を過去の共通テストで出題された問題を題材として丁寧に解説している。演習問題は多様な資料読解をメインとする問題で構成されており、いわゆる「基礎知識の確認」を目的とした単純な空欄補充問題は極力避け、基本的な知識を活用して解答を導かなければならない思考力を重視した問題を設定。本書は共通テスト対策に主眼を置いているが、記号選択式問題のみならず記述(論述)式問題も多く取り入れており、記述(論述)問題に挑戦することで資料読解問題

(3) 本書の活用方法

本書は、さまざまな場面での活用が想定できる。授業の復習や長期休業中の講習でじっくり資料読解の演習を行う際に使ってもよいし、模擬試験の直前に短期集中的に使用してもよい。また、新課程への対応や共通テストの対策に日々苦悩されている先生方にとっては、定期考査を作問するにあたって参考にしていただける問題集になったと自負している。

4 おわりに

新課程に対応した共通テストは始まったばかりであり、今後も学校現場では新課程や共通テストに対応するための試行錯誤が続くことだろう。本書が多くの場面で活用され、資料を読み解く力を伸ばし、歴史的な思考力を養うことに貢献できることを願っている。

共通テスト実施を受けた『Winning COM.-PASS 世界史の整理と演習』の活用案

世界史問題集
『Winning COM.-PASS
世界史の整理と演習』



長野県上田染谷丘高等学校
(2025年4月から長野県坂城高等学校)

教諭

まえ しま あきら
前 嶋 輝



1 2025年実施共通テストについて

(1) 概要と本校の実情

歴史総合の出題に備えるため、3年次の世界史探究が一段落してからは、近現代を中心に歴史総合（主に日本史分野）の復習を心掛けた。しかし、実際は日本史分野の出題はほぼなかった。出題形式も旧課程（世界史B）と似ており、予備校各校も難易度は易化と発表している。本校の生徒たちも率直に解きやすかったと回答した。しかし、本校の平均点は全国平均と比較するとまだ差を感じる結果であった。全国平均を超えるために重要な、本校で正答率が低かった問題について、具体的な課題を述べたい。

(2) 課題① 資料の読み取り（深読みする力）

授業では多くの資料を活用し、ペアワークも行い、資料の内容理解を促す活動を行った。加えて定期テストでも本誌の文章を用いて、書く・読む・正誤判断などの問題を増やしたことで、全体的な資料問題の正答率は上がってきた。しかし、思い込みや早とちりなどのミスが相変わらず頻発しており、試験を終えて嘆く生徒も多かった。さらに資料自体は読み込めても、第3問〔22〕のような「資料を活用する力（資料中の年代を計算する等）」を問われると正答率が低くなる傾向にある。

課題② 年代・世紀の理解と横のつながり

今回はここが最重要であったと考えている。横軸がつながる年号（例：1453年＝英仏百年戦争終了の年＝ビザンツ帝国の滅亡年）は重要視して扱っていた。しかし、授業で「○世紀にはこんな出来事があった」と言及する場面が少なかったためか、第2問〔10〕のような世紀を主とした設問で生徒はつまづいていた。第

3問〔20〕はインドを訪れた中国人僧侶（法顕・玄奘・義浄）の問題。インド史や中国史が苦手な生徒が多く、この3人は事あるごとに授業で扱ったが、正答率は低く、時代を横軸でつなぐことに課題を感じた。

課題③ 図版・地図の応用

第4問〔25〕ではバイキングが建国したノルマンディー公国とビザンツ帝国が出題されたが、正答率は非常に高かった。ここから生徒に基礎的な力があることが窺えるが、一方、バイキングの活動範囲を追ったヨーロッパの地図を用いた〔26〕の「アメリカ大陸の外から来た人たちが持ち込んだものは何か」という問いに対しては「ジャガイモ」「トウモロコシ」などの誤答が非常に多かった。〔25〕の正答率を考えると、生徒の多くは、ジャガイモやトウモロコシがアメリカ原産であるとは理解しているが、図中の矢印がヨーロッパに向かっていていることから、地図を誤って読み取ったと考えられる。

2 新課程入試を振り返って

本校では1年次に歴史総合を、2年次に文系選択者は世界史探究か日本史探究を選択する。歴史総合は大航海時代～第二次世界大戦まで内容をかなり絞り、ひと通り指導した。2単位しかないため、激動の近現代を世界史・日本史間をせわしく行き来するうえ、多くの国々がそれぞれの思惑で動くため、混乱する生徒も少なくない。歴史総合の授業内容や展開はさらに研究が必要と感じている。2年次の世界史探究選択者は人類の誕生から学習を進める。近現代を学んだ後に古代に遡るかたちだが、古代史や中世史は新鮮に映るようで前向きに取り組む姿が見られた。しかし3年次にな

ると、歴史総合の理解度による差が少しずつ始め、同じ講座に理解度が異なる生徒が混在することとなった。当初は「全く覚えていない」層に向けて丁寧に復習しながら授業を進めたが、「よく覚えている」層が授業に飽きる事態となった。悩んだ末、中間の「なんとなく覚えている」層に合わせ授業のテンポを上げてみたところ、例年より1カ月早く授業を終えられた。

そこで浮いた1カ月を使い、世界史探究と歴史総合の振り返りを実施したのだが、新しく教材を用意しても消化できないと考え、本誌を活用した。この復習期間は今思い返しても非常に有効だったと考える。初めての試みだったため、課題とともに活用案を述べたい。

たいが、3年次に使用した2023年度版は全18章48単元構成で、1カ月ですべては扱えなかった。そのため、今後は以下の2点でポイントを絞り、活用したい。

過去問分析：共通テストの過去問と本誌の年表・地図問題とで関連のある問題を洗い出す。または自校の正答率が低かった問題にチェックを入れる。

弱点分析：本校は中国史やインド史・東南アジア史が苦手な生徒が多いため、来年度も振り返りの時間が確保できれば、時代を大きく捉える、地図問題を扱うなどしていきたい。これにより、課題③の改善も図れると感じる。また、自校の生徒が苦手な単元を中心に問題演習や解説を行えば生徒たちの意欲も向上する。手法もクイズ形式にしたり、ペアで語句を説明し合ったりすれば、息抜きや気分転換にもなるだろう。

案② テーマ史から広げる

本誌の2024年度版は「テーマ史」が7題、「思考力養成問題」10題と前年度版からボリュームアップしている。これら約30ページを有効活用すれば総復習が可能だろう。総復習の後は、生徒に他にはどのようなテーマが扱われるか、アンケートを取ったり、話し合いをさせたりしても面白いかもしれない。

案③ 年表でグループワークを行う

先述のとおり、生徒の歴史総合の理解度には差があるが、それを埋めようと教員が説明を増やすだけでは、一部生徒は飽きてしまう。そこで考えたのが年表グループワークである。受験を控えた3年次では難しいが、2年次や3年次1学期の授業であれば、知識定着の方策として有効と考えている。まずは4人班を作り、本誌「王朝・治世年表」に掲載の各王国・帝国を調べる人をそれぞれ分担する。Aさんは七王国時代～プランタジネット朝までのイギリスを、Bさんはフランスをといた具合だ。各員が調べ学習と資料作成を行ったうえで、発表スライドは最大4枚、説明時間も5分と制限をかけることで、生徒は自ずと情報を取捨選択し、重要な箇所を自然と掴むことができるはずだ。発表後はお互いに疑問を出し合い、必要に応じて教員が補足解説を行えば、より理解度が深まる。そのあとで、当時のローマ教会など、各班では扱っていない地域・王朝を教員が解説するのも効果的だろう。

今回の共通テスト[22]のように、今後は資料の内容読解に加え資料を活用する力が求められる。授業では内容読解で精一杯なため、これからの本誌に資料を活用する力まで問う問題が増えていくと非常に有難い。

3 共通テスト対策としての活用案

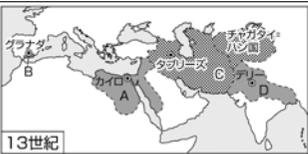
案① 年表と地図で各時代をまとめる

課題②の解消のため、資料集や教科書を用いた復習を心掛けていたが、情報量が多く、整理に時間がかかったり、何をまとめてよいか悩んだり、混乱する生徒が少なくなく、効果は上がらなかった。その点、本誌の年表や地図は重要事項がすっきりとまとまっており、見やすい。生徒も本誌掲載の語句を起点に関連の語句を調べる、説明するなど、年号や世紀を身近に感じ、時代を大きく捉えられると考える。

問2 資料に記された時期の **A** を支配していた王朝について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [10]

- ① ベルベル人が中心となって成立した王朝で、北アフリカとイベリア半島を支配した。
- ② 北アフリカに興ったシーア派の王朝で、君主はカリフを称した。
- ③ 奴隸軍人が中心となって成立した王朝で、モンゴル軍の西進を阻止した。
- ④ クルド系の軍人が創始した王朝で、十字軍からエルサレムを奪回した。

[2025共通テスト歴史総合、世界史探究[10]より]



13世紀

A : 20 _____ 朝 (首都カイロ)
スンナ派。イスラム世界の中心的王朝

B : 21 _____ 朝 (首都グラナダ)

C : 22 _____ 国 モンゴル系のちにイスラムに改宗

D : 23 _____ 王朝 ゴール朝の 6 が建国

[2023年度版本誌P.47ポイント整理より]

上に示した[10]のほか、[20]は本誌「ポイント整理」を押さえれば得点アップを狙えたはずだ。「ポイント整理」は可能なら網羅的かつ丁寧に解説し

『Winning COM.-PASS 日本史の整理と演習』 の特徴と活用の提案

日本史問題集
『Winning COM.-PASS
日本史の整理と演習』



筑波大学附属坂戸高等学校
教諭

わた なべ かず ひこ
渡 邊 和 彦

(『Winning COM.-PASS 日本史の整理と演習』
編集委員)



1 入試問題が問いかけること

2025年1月に現行の学習指導要領が実施されてから初めて大学入試が実施された。多くの教員は、大学入学共通テストや私立大学の一般入試、国公立大学の二次試験の出題内容に関心を寄せたとと思われる。

しかしながら、学習指導要領が変わったからといって、ただちに入試問題の出題内容が大きく変化するのだろうか、という疑問も浮かぶ。入試問題の中には、その当時の時勢を伺いながらも、受験生に教科・科目の本質や学問研究の成果を問いかけてくるものが少なくない。変化する学習指導要領や学問研究の成果に対応して日々の授業を絶えずアップデートすることは当然として、入試問題が受験生に問いかけるメッセージに耳を傾け、生徒とともに考える教員でありたい。

本稿では、入試問題が受験生に問いかけるメッセージの一例を紹介しながら、筆者も編集委員として関わる『Winning COM.-PASS 日本史の整理と演習』の活用方法について提案する。

2 本書の特徴と新課程への対応

本書の構成自体は、旧課程対応版から大きく変更していない。しかし、2024年度以降、新課程への移行に伴う対応として、以下の変更を加えている。

(1) 標準単位数の減少に対応した問題構成

本書の構成は、「ポイント整理」と「問題演習」に分けられる。改訂前の本書は、「問題演習」を「共通テスト対策問題演習」と「実戦問題演習」(私立大学や国立大学などに対応)の2種類で構成していた。し

かし、日本史B(4単位)から日本史探究(3単位)への変更に伴い、授業時数の減少による生徒の自学自習がより一層求められることが想定される。

そこで改訂後の本書では、「共通テスト対策問題演習」と「実戦問題演習」を「問題演習」に統合した。「問題演習」には、「共通テスト対策問題演習」で出題していた問題の一部や、資料の読み取り問題を加えることで、「問題演習」全体が共通テスト対策や私立大学・国立大学の入試問題に対応するように構成している。また、オンラインで取り組める正誤チェック問題「Quick-PASS」を増補し、「共通テスト対策問題演習」として出題していた誤りを指摘する問題などを含めた165問を掲載している。



▲Quick-PASS日本史



(2) 「総合演習」を時代ごとに追加

本書では、学習内容を「原始・古代」「中世」「近世」「近代」「現代」に区分を分け、「総合演習」を新

総合演習 ④ 近代

1 ココさんのグループは、近代の授業のまとめとして和田英という女性について調べて発表することになった。
 1 ココさんは資料1を作成し、イチさんとケイさんに共有することにした。

ココ：和田英の生涯を年表に整理しました。私たちが同年代の和田英が製糸業の発展に大きく貢献していることがわかります。

イチ：高岡製糸場が開設したのは1872年ですが、長野製糸場は民営製糸場ができたのは、わずか2年後だったんですね。こうした女性の活躍により、近代的な製糸技術が全国に広まったのだでしょう。

ケイ：日本の製糸業の発展ぶりが驚きますね。製糸業が近代日本の経済にどんな貢献をしたかは、近世期の進歩からもわかります。

(1) 資料1中の(A)の時期に起きた出来事X・Yとそれに該当する語句a-dの組合せとして正しいものを選び、

X 和田英が7歳になる頃、この地がイギリス・フランス・アメリカ・オランダの連合艦隊から砲撃された。

Y 和田英が3歳になる頃、新しく設立された工場の長官(卿)に、この人物が就任した。

a 飛騨島 b 下関 c 天久保村 d 伊留浦

① X=a Y=c ② X=a Y=d ③ X=b Y=c ④ X=b Y=d

(2) 下線部①の裏づけとして、イチさんは資料2・3を用意した。資料から読み取れるこれらの組合せとして正しいものを、あとから比べ、

a 亞細製糸の生産高が常陸製糸の生産高を上回ったのは、日本と清が戦争をする直前である。

b 亞細製糸の生産高が常陸製糸の生産高を上回ったのは、日本と清が戦争をした直後である。

c 1902年冬の製糸業の工場の新設のうち半数以上は、日本と清が戦争をする直前までに創業された。

d 1902年冬の製糸業の工場の新設のうち半数以上は、日本と清が戦争をした直後以降に創業された。

① a+c ② a+d ③ b+c ④ b+d

(3) 下線部②について、資料4は先生が授業中に示したグラフである。グラフに関する3人の発言を読んで、正しいものを選び、

資料4 日本の貿易額

1885年 輸出総額1,715万円 輸入総額2,535万円

1899年 輸出総額2,149万円 輸入総額2,040万円

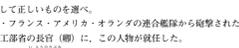
1913年 輸出総額3,246万円 輸入総額2,943万円

輸出：茶葉 29.0% 絹織物 29.7% 生糸 29.1% 絹花 37.0% 絹織物 29.8% 絹花 37.0% 絹織物 29.8%

輸入：石炭 5.3% 絹織物 7.1% 絹花 4.1% 絹織物 5.3% 絹花 5.4% 絹織物 5.4%

資料1 和田英に関する年表

1857	長野県長野市近代に近代産土の娘として誕生
1873	16歳で同郷の女子15名とともに官営高岡製糸場の工女となる
1874	7月：高岡製糸場を退場
8月	長野県西条村に開設された日本初の民営製糸場(のちの六工社)の技術教師となる
1880	同郷の平人村岡徳次と結婚し長女が生まれる
1907	自身のこれまでを振り返り、記録を始める
1929	病気で亡くなる



資料3 創業年次別にみた工場数 (1902年本邦内)

創業1870年以前	82
1871~1879年	304
1880~1902年	1,296
工場の新設	2,478



単に知識を覚えさせるだけでなく、資料を解釈する際に知識が必要であることを本書の問題集を通じて理解するよう、教員が働きかける必要がある。

また、令和7年度の大阪大学二次試験(前期、全学部)では、「壘田永年私財法を契機に律令体制は崩壊する、という見方が存在する。しかし現在では、こうした見方は一面的であることが指摘されている。壘田永年私財法の中身と影響について、律令体制との関わりに触れながら、具体的に述べなさい(200字程度)」という出題がされている。この設問からは、学問の成果が常に更新されることを念頭に、一つの歴史事象に対して多面的な見方をできる学生を求める大学の姿勢が見えてくる。本書で掲載されている問題では、歴史事象に対する異なる見方を随所に散りばめている。基礎的な知識から応用まで網羅した本書が多くの生徒の手に届くことを願っている。

問3 下線部③に関連して、渤海を「高麗」と記す資料があることに関心を持った二人は、「高麗」という記述がある資料を集めた。資料1~4のうち、渤海のことを「高麗」と記す資料として最も適当なものを、後の①~④のうちから一つ選べ。 16

資料1
 天皇が右大臣に大宰府の文書と高麗國の外交文書を示した。公卿たちが議論した結果は、「返事をしてはならない。また、要害を警固し、祈禱を行う。」ということだ。ただしこの外交文書は高麗のものではないようだ。もしかすると宋の諜略か。

資料2
 高麗の使者の外交文書には、「高麗國王の犬欲虎が申し上げます。日本では聖武天皇が亡くなったとお聞きしました。そこで使者を遣わして、上表文と恒例の貢物を持たせて入朝させます。」とあった。

資料3
 高麗の使者は、「隋の煬帝は、三十万の軍を送ってわが国を攻めましたが、逆になわが軍によって破られました。その時の捕虜や武器、国の産物などをたてまつります。」と述べた。

資料4
 難波薬師奈良らは、「私たちの先祖である徳来はもと高麗人でしたが、百濟國の人となりました。昔、雄略天皇が百濟に技術者を求めた際、徳来を日本におくりました。」と述べた。

- ① 資料1 ② 資料2 ③ 資料3 ④ 資料4

▲令和7年度共通テスト問題 第3問 問3

3 本書の活用例

本書の活用にあたっては、本書の問題と解答例を丸暗記するような活用ではなく、教科書をよく読み込み、時代の流れを意識しながら本書の演習問題に取り組むことを勧めたい。令和7年度の共通テスト本試「歴史総合・日本史探究」で筆者が印象に残っているのは第3問 問3である。

資料1は、「天皇が右大臣に～」との書き出しから年代を特定するのは難しく、「宋」という国名から時期が異なることを判断する。資料3は、「隋の煬帝に勝利して得たものを高麗の使者が献上した」ということであるから時期が誤り。資料4も「高麗人が百濟國の人となり雄略天皇時代に日本へ渡った」ということであるから時期が誤り。よって資料2が正解…ということを生徒は考えることになる。共通テストは、一つ一つの知識を覚えているだけでなく、覚えた知識を実際の資料解釈で活かすことができるかを問うている。

共通テスト実施を受けて『Winning COM.-PASS 公共・政経の整理と演習』の授業活用例・活用案紹介

『公共、政治・経済』問題集
『Winning COM.-PASS 公共・政経の整理と演習』



石川県立金沢西高等学校
教諭
藤井 たいが
大 河

1 はじめに

筆者の勤務校はいわゆる地方の中堅進学校である。学級数は地域全体の高校生人口に合わせて弾力的に変更され、最も時勢の影響を受けやすいといえる。整った設備によりICT機器を活用した授業を継続して行える恵まれた環境である。しかし、国語、数学、英語に学習時間をとられ、生徒たちには地歴公民や理科に回せる余裕も時間も無い、というのが実情である。また、難関国公立大学を目指す生徒と専門学校進学を目指す生徒が混在し、受験指導に走るといよりは日常においてわかる授業を追究すべきであり、生きていく上で必要な知識と力を身に付けさせなくてはならない。まさに社会科の本旨を全うできるが、そのうえで受験に使えるように…と、多様な生徒実態を前に二兎を同時に追わなくてはならない、というきわめてエキサイティングな環境である。こうした実情に照らすと、『Winning COM.-PASS 公共・政経の整理と演習』（以下、『ウィニング公共・政経』）は、基礎から学び始め、授業を大切にしながら振り返り、共通テストの問題演習に入り、反復するうえで段階を踏んで学習できる最適な教材であるといえる。

2 タイパと言いたくないけれど。

ほとんどの教員は、自分が担当する教科の学習を生徒にさせるうえで、時間をかけ、量を確保し、反復をしてもらいたいの本音ではないだろうか。しかし生徒の実態はまったく異なっている。学校行事、授業、定期試験、部活動、あらゆる活動の中で調和をとりながら発達していくことが肝要である。そうすると、中堅の進学校としては、公民科目に優先的に時間を割く

ことは簡単ではない。時間対効果、能率の向上が必要である。自分の授業スタイルは授業内完結をモットーとしている。

- ① 授業中にワークシートで予習（10分程度）
- ② 授業中に黒板に解答を記入しにくる（5-7分程度）

- ③ 生徒どうしの板書を見てワークシートを完成
- ④ 講義、ペアワーク、グループワーク（20分）
- ⑤ まとめの課題をクリアする（5-10分）

徹底的に生徒に基礎から応用まで活動させることで、一人ひとりの授業時間内における作業量を増加させ、時間に対する学習量を最大化させるよう試みている。

とくにまとめの⑤においては、Google classroom によるform課題を与える場合もあれば、入試問題を授業の知識を用いて完成させる場合もある。ところで、教科書と準拠のワークブック、そしてワークシートと資料集では情報量が多ページにわたり、一目で理解できずに生徒が苦しくなるときに、①～④までの振り返りを行ううえで『ウィニング公共・政経』のまとめページがまず生きてくる。生徒はすでに1時間内で学習内容を①～④で4周することになるが、さらに『ウィニング公共・政経』を開くことで素早く、一望できる形で授業の総復習を行うことができる。

政治・経済 学習の心構え

1. 毎日の学習を大切にすべし

ゼーゼー、息を絶やさない!!!

- 政治・経済の学習をなにごとから（根本的、本質的な学ぶ意味）
- 将来、経営者/労働者にならな、何を学ばねばいいのかわ
- 進路をすすむときに、何を加えていけば自分に合ったものか
- 政治・経済を勉強するのはどうにか（具体的にどうするか）
- 国立大学の二次試験 → 幅広い知識、理解と応用、卒業後を学ぶ
- 私立大学の個別試験 → 細かく正確な知識、問題の傾向の把握
- 共通テスト → 戦略と学習方法、採点の点数によって戦略は変わります
- どちらの目標も明確にし、意図と意欲を持って学びましょう。進路、受け入れ、入試への準備は絶えず。

2. 毎日はどう位置づけるのか意識すべし

4月-6月 → 政治分野の概観、先取りで教員講義の全体感を把握
7月まで → 教科書とwinning compassのまよの問題を一冊しておく
授業で勉強のころまでには見直し済み

8月 → winning compassの演習問題を授業・補習・補習で一通りみる

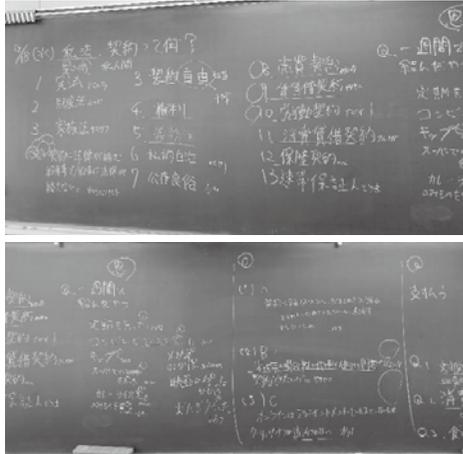
9月-10月 → 模試を活かす。教科書とwinning compassを行き来する
→ 授業を最大に活かすし、経済分野を深く理解する

冬模試（七・三）の活かし方
例：①間違えた問題をもう一度取り敢てファイル（ここは必ず）に貼る
②その問題がいつかファイル（必ず）を見直す
③解答できれば正答ファイル（必ず）に貼る
④正答ファイルの容量が大きくなっていくにつれて高得点がえられるようになっていく
⑤模試の基礎は正答ファイル別冊ファイル別冊の時間配分で目を通し、
模試に解答できる問題の割合を確実に増やす

11月 → 政治・経済分野全体の授業が完了する。共通テスト対策を本格化する
→ 模試、コンパス、共通対策が関連づけられていれば、正答ファイルが分厚いはず

12月 → 共通テストの演習を行う
→ 最後まで正答ファイルと正答ファイルの分野別割合を自分でつくり、自分の解答分析や得点分析ができるように

⑤の段階で『ウィニング公共・政経』の共通テスト過去問題演習を行うことで着実に学習が進んでいることがわかり、またファイリングを明確にやっている生徒は確実に解答できる問題の割合を着実に積み上げて増やせる。



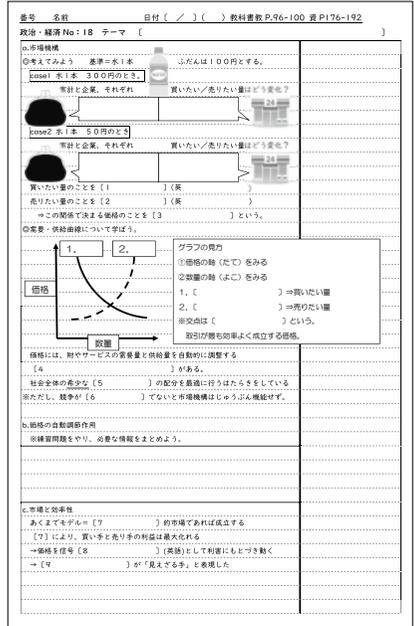
▲板書は生徒が記入しにやってくる。(②③)

中堅進学校特有の事情がある。高校3

年生の受験直前期になり、国語・数学・英語の学習にエンジンが(やっとのことで)かかる7月以降において、強烈に科目を絞りたい、共通テストが不安である、そして不安すぎて共通テスト演習や二次試験の演習を避け、なんと教科書準拠のワークブックに回帰してしまう、という事件が多発する。もし本当に教科書準拠のワークブックや一問一答に回帰してしまうと、直前期には大幅に不利である。しかし授業で親しんだ教材が『ウィニング公共・政経』であるならば、これに戻ってもらうことに関しては何の問題もない。授業で使っているにもかかわらず網羅的であり、さらに共通テスト演習の典型問題が配置されている。特筆すべきは需要・供給曲線など誰もが苦手意識を持ちがちな分野である。典型的な問題例が網羅されており、過去問題の演習はこの問題だけでちょうどマスターできる、という配分になっている。

3 信頼

忘れられない思い出がある。国公立大学をめざして学習していた受験生が、10月に緑内障を患い、それまでのように細かい文字を追うことが困難になってしま



い、作業速度が大幅に落ちてしまった。東京法令出版様に相談したところ、拡大印刷のためのデータを用意してもらい、生徒は快適に学習することができた。大切にすべきはまず生徒である、というビジョンを共有できる、迅速に対応していただける、という点においても自分は『ウィニング公共・政経』を使い続けると考える。

4 おわりに

本校は受験を中心として授業をすべき学校ではない。生徒にとっていい授業、生徒にとっていい学びを優先すべきであり、その先に受験における公共・政治経済の高得点があるべきである、という現場である。

模試の数値が振るわなくても『ウィニング公共・政経』を信じて基礎から学び始め、『ウィニング公共・政経』を完成させれば本校生徒が志望する進路は叶っていく、という明確な目標として設定できる。

とうほうnavi

— 社会科情報 — 第10号

2025年4月 発行

代表者 星沢 卓也

編集・発行 とうほう 東京法令出版株式会社

☎112-0002 東京都文京区小石川5丁目17番3号 ☎03(5803)3304
 ☎534-0024 大阪府都島区東野田町1丁目17番12号 ☎06(6355)5226
 ☎062-0902 札幌市豊平区豊平2条5丁目1番27号 ☎011(822)8811
 ☎980-0012 仙台市青葉区錦町1丁目1番10号 ☎022(216)5871
 ☎460-0003 名古屋市中区錦1丁目6番34号 ☎052(218)5552
 ☎730-0005 広島市中区西白島町11番9号 ☎082(212)0888
 ☎610-0011 福岡市中央区高砂2丁目13番22号 ☎092(533)1588
 ☎380-8688 長野市南千歳町1005番地

【営業】 ☎026(224)5411 FAX026(224)5419

【編集】 ☎026(224)5421 FAX026(224)5409

https://toho.tokyo-horei.co.jp/